



高等学校日语教材

经贸日语

第二版

范崇寅 主编



大连理工大学出版社
DALIAN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY PRESS

H36/87=2D

2007

高等学校日语教材

经贸日语

(第二版)

主 编 范崇寅
副主编 彭 杰

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

经贸日语 / 范崇寅主编. —2 版. —大连: 大连理工大学出版社, 2007. 9

(高等学校日语教材)

ISBN 978-7-5611-1543-5

I. 经… II. 范… III. 商业—日语 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(98)第 27026 号

大连理工大学出版社出版

地址: 大连市软件园路 80 号 邮政编码: 116023

发行: 0411-84708842 邮购: 0411-84703636 传真: 0411-84701466

E-mail: dutp@ dutp. cn URL: <http://www.dutp.cn>

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 140mm × 203mm

印张: 14.5

字数: 362 千字

附件: 光盘一张

印数: 20001 ~ 22000 册

1999 年 1 月第 1 版

2007 年 9 月第 2 版

2007 年 9 月第 7 次印刷

责任编辑: 王佳玉 张 凡

责任校对: 海 洋

封面设计: 宋 蕾

ISBN 978-7-5611-1543-5

定价: 29.80 元

2 版 前 言

随着中日经贸关系的不断扩大,社会对具有扎实的日语语言能力和宽泛的经贸知识的复合型人才的需求呈旺盛趋势。为了适应社会对日语人才需求的变化,满足广大读者的需要,作者编著了《经贸日语》一书,并于一九九九年由大连理工大学出版社出版发行。此后,该书被全国许多高等学校作为教材使用,获得了较好的社会评价,多次重新印刷,基本满足了教学需要和经贸商务人员的学习需求。

近些年来,随着世界经济全球化进程逐渐加快,亚洲经济乃至世界经济均出现了许多新的变化,依据这些新变化,有必要对原教材内容进行更新。新编著的《经贸日语》(第二版)教材仍保留原教材的主要风格,集经济、贸易、金融和商法方面的内容为一体,既有经济、贸易、金融、商法方面的基础知识,又有当今世界、亚洲和日本经济问题的深入的理论研究以及贸易、金融实务方面的内容。所选用的文章均为日本近年出版的经贸方面的专业书籍和理论专著以及经贸类期刊。为了方便学习,对所选取的原文作了适当的节选和删改。

本教材共分为 22 课,每课由正文、会话、相关例句、阅读课文、单词、注释及小知识构成。主要适用于日语专业(经贸方向)或经贸专业日语学生使用,也可作为经贸业务人员自主学习用书。

考虑到高等学校作为教材使用的需要以及经贸商务人员自主学习的需求,每课中的会话和阅读课文附有参考译文,这既为教师课堂授课留出了较大的发挥空间,又为学习者自主学习提供了便利。

本书由范崇寅主编。参加本书编写工作的有：范崇寅、彭杰、鲁畅等，范存婷、刘羲等参加了资料的整理、电子文稿的录入和校对工作。全书由范崇寅统稿。

在编写过程中曾得到王佳玉、金仁淑、谭会萍、刘灵芝等专家以及日本驻大连商社办事处的朋友和日籍教师的许多帮助，在此一并表示衷心的感谢。同时还要向参阅书目的作者表示最诚挚的谢意。

由于作者水平所限，书中错误或不当之处在所难免，恳请专家以及读者提出宝贵意见。

编 者

2007 年 8 月

目次

経済編

第一課	本文:なぜ経済学を学ぶのか	1
	閲読:マクロ経済学とは	7
	会話:出迎え	14
	豆知識:名刺のマナー(上)	19
第二課	本文:現代の世界経済をどうみるか	20
	閲読:現行の国際経済秩序	27
	会話:商品及びメーカーの紹介	33
	豆知識:名刺のマナー(下)	39
第三課	本文:グローバリゼーションと地域経済(上)	40
	閲読:グローバリゼーションと地域経済(下)	47
	会話:引き合い	52
	豆知識:職場での日常マナー(上)	58
第四課	本文:世界市場の統合化とその帰結(上)	59
	閲読:世界市場の統合化とその帰結(下)	67
	会話:オファー	73
	豆知識:職場での日常マナー(下)	80
第五課	本文:バブル発生の構造	81
	閲読:バブルはなぜ起こったか	86
	会話:注文	90
	豆知識:電話でよく使う用語(上)	94

貿易編

第六課	本文:WTOの概要と問題点	95
	閲読:国際貿易の制度と歴史	102
	会話:価格交渉	110
	豆知識:電話でよく使う用語(下)	116
第七課	本文:自由貿易と保護主義	117
	閲読:日本のFTA	123
	会話:コミッション	128
	豆知識:商談	134
第八課	本文:売買条件の取り決め	135
	閲読:貿易実務の戦略	139
	会話:支払い条件	144
	豆知識:商談中の人への連絡	149
第九課	本文:輸出実務の概要(上)	150
	閲読:輸出実務の概要(下)	155
	会話:船積み	158
	豆知識:商社	166
第十課	本文:FOBとCIF	167
	閲読:信用状	172
	会話:包装	176
	豆知識:グループ精神	181
第十一課	本文:輸入実務の概要(上)	182
	閲読:輸入実務の概要(下)	186
	会話:保険	190
	豆知識:定期採用	195
第十二課	本文:不可抗力約款	196

閲 読:保険証券	200
会 話:契約	204
豆知識:終身雇用制	209

金 融 編

第十三課	本 文:国際金融から得られる利益(上)	210
	閲 読:国際金融から得られる利益(下)	216
	会 話:輸入(一)	221
	豆知識:有給休暇	226
第十四課	本 文:国際収支と国際収支表	227
	閲 読:ブレトンウッズ体制と国際通貨基金	232
	会 話:輸入(二)	238
	豆知識:単身赴任	242
第十五課	本 文:景気対策急務に	243
	閲 読:通貨切り下げ競争回避を	248
	会 話:輸出(一)	251
	豆知識:赤ちょうちん	255
第十六課	本 文:外国為替取引の基礎	256
	閲 読:外国為替市場	259
	会 話:輸出(二)	264
	豆知識:日本人は仕事上の客を自宅に招かない	270
第十七課	本 文:株式の本質と種別化	271
	閲 読:株式取引所取引の特質	275
	会 話:クレーム	279
	豆知識:あいづち	284
第十八課	本 文:有価証券の概念と機能	285
	閲 読:証券発行の諸形態	288

会 話:合併企業	293
豆知識:無礼講	299

商 法 編

第十九課	本 文:商法の基本概念および特色	300
	閲 読:商法の意義	305
	会 話:補償貿易	308
	豆知識:稟議	313
第二十課	本 文:法律行為と意思表示	314
	閲 読:契約の成立とその種類	319
	会 話:加工貿易	322
	豆知識:根回し	327
第二十一課	本 文:商人	328
	閲 読:商業帳簿	332
	会 話:三国間貿易	335
	豆知識:二八	340
第二十二課	本 文:訴訟	341
	閲 読:予防の司法制度	346
	会 話:見送り	349
	豆知識:辞表	355
附 録 I	会話参考译文	356
附 録 II	阅读参考译文	376
附 録 III	国际贸易术语英文缩写	445
主要参考文献		453



経 済 編

第 一 課

「 本 文 」

なぜ経済学を学ぶのか

一昔前には、経済学とは数式がたくさん出てきて、たいへん抽象的な学問であるという印象が強かったようです。しかし、最近では新聞や一般雑誌で経済問題が頻繁に取り上げられ、世間の経済問題に対する関心も高まり、経済学のイメージもだいぶ変わってきたようです。

このような変化は、歓迎すべきものでしょう。むずかしい数式やグラフを理解するためにエネルギーを使い果たし、かんじんの現実の経済現象にまったく音痴である人が結構多いのですが、これではなんのために経済学を学ぶのかわかりません。経済学を学ぶからには、現実の経済現象に関心を持ってほしいものです。



新聞の経済記事などを注意深く読むと、経済問題はたいへんに面白いものであることが理解してもらえenと思います。地価、米の問題、国際経済摩擦や為替レートなど、いずれも劇的な展開を示し、それを観察する側は何度も息を呑む思いをします。しかも、これらの問題は、いずれも私たちの生活に大きな影響を及ぼすものです。

「経済学を学ぶ目的は、経済学者の議論にだまされないようにするためである」とは、イギリスの高名な経済学者の言葉であつたように記憶しています。私はこの言葉を、次のように勝手に解釈しています。経済学を学ぶ目的は、世間に流布する俗説や通説を鵜呑みにしないで、自分の頭で経済現象について考え、理解することができる能力を身につけることであると思います。この解釈にもとづいて上の言葉を現代風に解釈しなせば、「経済学を学ぶ目的は、マスコミやエコノミストによって作られる俗説に惑わされずに、自分の目で経済現象をみつめる能力を身につけることにある」とでもなるでしょうか。

新聞や雑誌を開けば、俗説はいくらでもみつけることができます。たとえば、「日本の対米貿易収支や経常収支が大幅な黒字であるのは、日本のマーケットが閉鎖的であるからだ」という主張があります。この主張には、二つの問題があります。ひとつは、経常収支や貿易収支がマーケットの閉鎖性と関係があるとする見方です。もうひとつは、日本とアメリカのような二国間の経常収支や貿易収支に重要な意味があるという考え方です。

本書を読んでいただければ、経常収支や貿易収支は、マクロ的な生産と支出の関係で決まるのであり、マーケットの閉鎖性や貿易制限的な政策によって決まるものではないことがわかenと思います。また、二国間の経常収支などを問題にすることにも、



ほとんど意味を見出すことはできません。もし上の俗説を鵜呑みにすれば、経常収支の黒字に対して、アメリカ側では反日的感情や保護主義的な政策が出てくることになり、日本側ではそれもやむをえないということになります。現実にも、このような雰囲気があったくないとはいえません。

しかし、経常収支の黒字という点に関してより正確な理解があれば、直接それを政策問題にすることはないでしょう。また、たとえするとしても、経常収支の黒字を減らすのに効果があるようなマクロ経済政策の適用が試みられるでしょう。このように、経済現象についてどのような理解をするかによって、政策的対応や対外感情などがたいへんに違ったものとなるのです。

経済分析の二つの柱：行動における合理性と市場の機能

新聞を広げると、地価、税制、貿易摩擦、雇用問題など、さまざまな経済問題が目に入りますが、これらの経済問題は多くの共通性を持っています。経済問題に共通する基本的要素について明らかにすることが、経済学の目的といえるでしょう。経済分析のもっとも基本的な特徴をあげるとしたら、行動における合理性の仮定と、市場における相互作用のメカニズムであるといつてよいでしょう。経済学の議論の多くが、いずれかにもとづいています。以下で例をあげながら二つの点について説明しましょう。

(1) 市場における相互作用のメカニズム

経済現象がときとして非常に複雑になるのは、経済内の経済主体や市場の間にさまざまな形態の相互作用が働くことによります。この相互作用について理解することが、さまざまな経済現象を分析する際に重要となります。この点に関して、次のような例を考えてみましょう。



「すべての人が貯蓄を増やそうとすると、各人の貯蓄は結局減少することになる」という主張は、奇妙だと思いませんか。経済主体間の相互作用があるため、このような現象はけっしてありえないことはありません。

各人が自分の貯蓄を増やそうとすることは、実はそれだけ消費を減らそうとすることにほかなりません。なぜなら、貯蓄とは所得のうち消費にまわさない部分のことですので、貯蓄を増やすためには消費を減らさなければならないからです。人々の消費が減少すれば、それだけ企業の生産する商品に対する需要も減少しますので、景気が悪化します。景気の悪化は、失業の増加や企業の利潤低下といった形で現れます。これは、結局は、個々の消費者の所得の減少となります。所得の減少の結果、人々は貯蓄を減らさざるをえなくなります。人々の消費意欲は景気の重要な決定要因ですので、貯蓄を増やすためには、まず消費を増やし景気をよくすることが必要な場合もあります。

ここであげた例は、各人の行動を積み上げただけでは、経済全体の動きをつかむことができないことを示しています。人々の貯蓄行動は、消費意欲の変化を通じて、景気の重要な決定要因でもあります。景気は人々の所得水準に影響を及ぼし、貯蓄にも影響を及ぼすわけです。

以上の例は、経済内に働く相互作用のほんの一例で、相互作用はこのほかにもいろいろな形態をとりえます。二つほど、追加的な例をあげてみましょう。

・米の輸入制限をすることは、米に土地や労働力を使うという意味で、それだけ他の生産を犠牲にしています。このような点も考慮に入れて、輸入制限政策の意義について考える必要があります。

・内需拡大策などの財政政策を行えば、利子率や為替レートも



変化します。これによって、民間投資や貿易、さらには海外諸国にも影響が及びます。

第一の例は、ミクロ経済学で一般均衡分析と呼ばれる分析手法の基礎にある考え方を表しています。いろいろな産業はおたがいに密接に関連しあっているので、ひとつだけを切り離して議論することはできないというのが、その基本的な考え方です。

第二の例は、マクロ経済学と呼ばれる分野の典型的なケースです。マクロ経済学とは、経済全体を大づかみにとらえようとする分野であり、GNP、利子率、為替レート、物価など、いくつかの重要な経済変数の間の相互作用を分析することが、その主要な目的となります。

(2) 合理性の仮定

経済学のもうひとつの大きな柱は、人々の行動が合理性にもとづいているという仮定です。現実には、人々は多くの非合理的な側面を持っています。そのような非合理的な面、あるいは異常と思われるような側面を強調し、それについて分析をしていくことは、それなりに意味があることでしょう。心理学などでは、そのような手法が成功していると聞きます。

しかし、経済現象を大づかみにとらえ、経済の基本的な機能やその動きについて分析するためには、人々が合理的に行動していると仮定したほうがよいと思われます。人々の経済活動のかなりの部分は、合理的な判断にもとづいていると考えられるからです。

経済活動が合理性にもとづいていると仮定することは、分析上たいへんに大きな意味を持っています。たとえば、米の自由化問題について考えてみてください。私たちが外から観察できるのは、米の価格、取引量、政府の財政負担額だけです。しかし、もし消費者も生産者も合理的に行動していると考えれば、価格



の背景に生産者のコストと消費者の米の評価を読み取ることができます。

生産者が合理的であるならば、価格が費用を上まわるかぎり生産を増大しようとし、費用が価格の水準になるまで生産しようとするでしょう。したがって、米の価格は、なんらかの意味で米の生産コストを表しています。消費者のほうも、米の価格とみずからの米に対する評価を比較しながら、米の消費量を決めます。したがって、米の価格の背景には、消費者の米に対する評価も隠されているのです。

このように、人々の行動が合理性にもとづいていると想定するのなら、価格の背景に生産者のコストや消費者の評価が隠されていることがわかります。そして、この情報を使えば、米の自由化をして価格が下がったとき、それで生産者がどれだけ損失をこうむり、消費者がどれだけ利益を得るのかといったことが読み取れることになります。

合理性の仮定は、以上のような例のほかにも、さまざまな分析上の利点を持っています。たとえば、財政政策や金融政策などマクロ経済政策の影響について考えるとき、企業や消費者が政策の変化に対してどのように反応するかが重要なポイントとなります。この点に関して、もし企業や消費者がある程度合理的に行動すると想定するのであれば、その反応の方向についても予想することが可能となります。

注 釈

1. [动词]からには

该惯用句型表示“既然到了这种情况”的意思。后续是“要一直干到底”的表达方式。用于表示请求、命令、意愿、应当等的句



子中。可译为“既然……就……”。如：

○約束したからにはまもるべきだ。

○この人を信じようと一度決めたからには、もう迷わないで最後まで味方になろう。

2. [动词连体] ことになる

该惯用句型表示某事物状态的发展趋势，必然结果或合乎逻辑的结论。可译为“将……”，“会……”，“就是……”（结果）“等于……”。如：

○私が沈黙を守るとすれば、それはいたずらに兄を苦しめることになる。

○あなたの言っていることは、結局は[実行不可能]ということになりますか。

3. [动词] ざるをえない

该惯用句型表示除此以外别无选择的意思。可以与“动词 - するほかない”替换。表示迫于某种压力或某种情况而违心地做某事。是书面性语言。如：

○先生に言われたことだからやらざるをえない。

○あんな話を信じてしまうとは、我ながらうかつだったとい言わざるをえない。

4. GNP 是英文“Gross National Product”的缩写，日文叫做[国民^{こくみん}総^{そう}生産^{せいさん}]，译成中文是“国民生产总值”。

閱讀

マクロ経済学とは

最近は、テレビや新聞などのメディアを通じて、経済問題が茶



の間にも頻繁に入ってくるようになりました。「経済が停滞して失業率が高くなっている」、「投資が堅調で景気を支えているが、物価も徐々に上がり始めている」、「景気を刺激するため政府は大幅な減税と政府支出の拡大を計画している」、「円高で企業の業績が落ち、失業が増えている」、などといったことは、その内容についてのおおよその見当はつくと思います。

上であげた例に出てくる、景気・物価・失業率・投資などは、いずれも経済全体の状態をおおまかにとらえるための概念です。マクロ経済学の目的は、このような経済全体を大づかみにとらえる基本的な変数の間の関係について分析し、もし可能であるなら、そこから政策的に有益な示唆を得ようとすることにあります。

マクロ経済学は、よくミクロ経済学と対照した形で取り上げられます。「マクロ(大きい)」という言葉にも現れているように、マクロ経済学では経済全体の大づかみな動きを分析の対象とします。つまり、経済全体の生産量や雇用あるいは物価などがどのようなメカニズムで決定されるのか、あるいは政府による政策が景気や国際収支などにどのような影響を与えるのか、などの問題が論じられます。

これに対してミクロ経済学では、ミクロの問題、つまりもう少し細かな問題が扱われるのかといえ、必ずしもそうではありません。たしかに、ミクロ経済学では、米価政策、電力料金、自動車の輸出自主規制など、個別産業の問題も扱いますが、他方で日本の税制のあり方とか、貿易が産業構造に与える影響といった、経済全体の問題もその分析の対象とします。しかし、このような経済全体の問題を扱う場合であっても、ミクロ経済学の主たる関心は、「資源配分」の問題にあります。これに対して、マクロ経済学では、資源配分の問題も議論しますが、主たる関心は雇